



中也のふるさとで詩人のこころを旅する

# 中原中也 記念館

中原中也は明治40年(1907年)4月29日に、湯田温泉に広い敷地をもつ大きな医院に生まれましたが、その生家は昭和47年(1972年)の火事で茶室と蔵を残して焼失しました。

記念館は平成6年(1994年)2月18日、焼失した生家跡の一部に建てられ、火事の際に運び出された遺稿や遺品を中心に、貴重な資料が公開されています。

館内は「常設固定展示」「常設テーマ展示」「企画展示」の三つの展示コーナーで構成され、中也の草稿・日記・書簡等の資料が公開されています。「常設テーマ展示」は1年ごと、「企画展示」は2ヶ月から3ヶ月ごとに展示替えを行い、何度訪れていただいても在りし日の中也の姿を新鮮に感じて頂けるようになっています。また、パネル展示した詩には鑑賞の手引きとなる簡単な解説が添えられ、さらに、書籍・ビデオ・CD・パソコンなどを通じて、訪れる方の興味・関心に応じた中也の世界に親しんでいただけるコーナーが設けられています。



## 山口の先人 中原中也 (1907~1937)

山口市が生んだ詩人、中原中也。わずか30年という短い生涯を詩のことに捧げた作品は、年とともに真価を高めていき、昭和期屈指の抒情詩人と言われている。「山羊の歌」や「在りし日の歌」などに代表される作品は、独特のリズムを持ち抒情豊かな彼の作風をよく表している。



時を告げる鐘の音に異国情緒が漂う

# 山口サビエル 記念聖堂

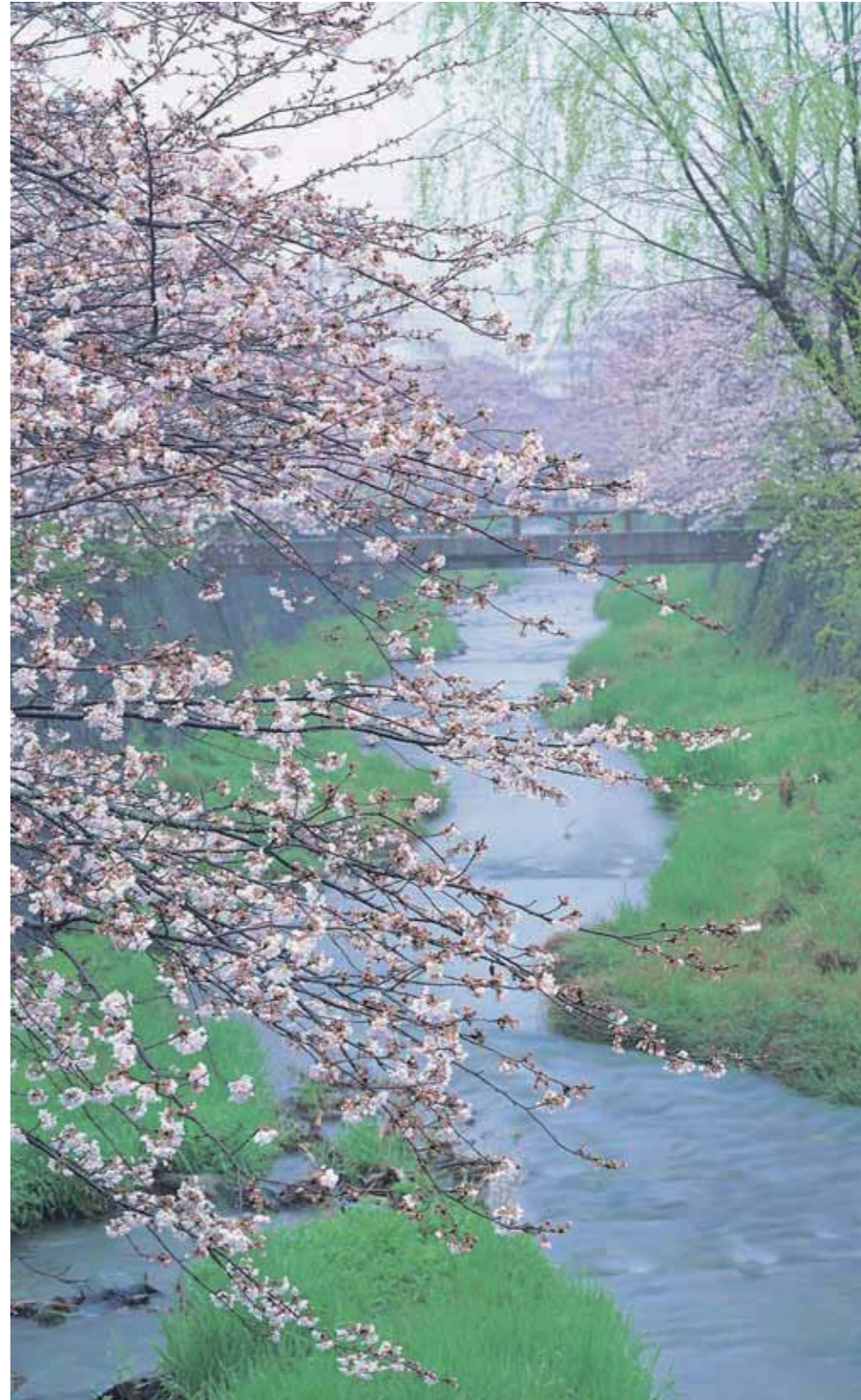
サビエル記念聖堂は、昭和27年(1952年)、サビエルの山口来訪後400年を記念して献堂されましたが、平成3年(1991年)9月5日に焼失し、平成10年(1998年)4月に再建されました。

新聖堂は、神を象徴した「光」と「水」「テント」が全体のテーマになっています。正面にはステンドグラスと十字架が配されており、そのステンドグラスは「光」や「水」など聖書の中に記された神の言葉がテーマとして作られています。また、高さ53メートルの2本の塔を配し、屋根が建物全体を覆う三角錐となっている斬新なデザインで、テント(幕屋)をイメージして作られています。さらに、新聖堂の塔につけられた新しい九つの鐘には、それぞれに平和と幸せを告げるメッセージが刻まれています。



## 山口の先人 フランシスコ・サビエル

スペイン出身のキリスト教宣教師フランシスコ・サビエルが、31代大内義隆の許可を得て、一庵寺を教会に仕立てて布教を行ったのは天文20年(1551年)のことである。その後、半年間をここ山口で過ごした。



西の京のロマンを秘めた散歩道

# 一の坂川

その昔、京都を横して造られた、山口の街。市街地を流れる一の坂川は、京都の鴨川に見立てられ、川沿いには町並みが続いています。今なお、往時の情緒が残り、その屋根越しに、八坂神社の赤い鳥居や瑠璃光寺の五重塔を望む事ができます。

春には桜、ツツジ、初夏には国の天然記念物に指定されているゲンジボタルが舞うなど、四季折々ロマンチックな散策道となっています。

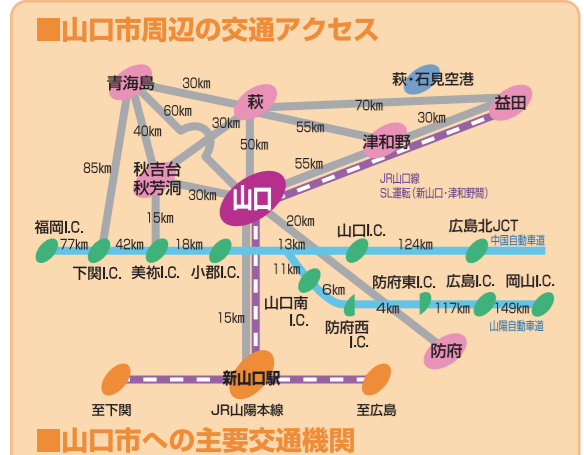


## 山口の先人 大内弘世

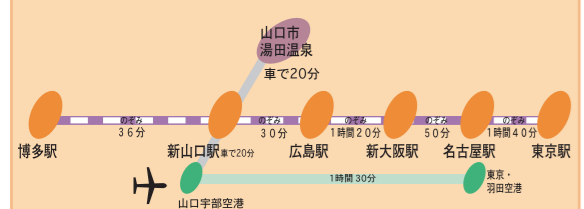
室町時代、西国一の権勢を誇った守護大名大内氏。24代大内弘世は京都に模した街づくりを行い、京都の文化も多く取り入れた。また、弘世は夫人を京都より迎えたが、夫人があまりにも京都を恋しがることから、これを慰めようと京都から呼び寄せた人形師に人形を作らせた。これが大内人形のはじまりと伝えられる。

## ACCESS INFORMATION

### 山口県内観光地への交通のご案内



### 山口市への主要交通機関



このパンフレットは環境保護の為、再生紙を利用しています。 2010.03. 60,000

## 山口市観光ガイド

# まにまに山口

山口市観光ガイドホームページ http://www.city.yamaguchi.lg.jp/kankei/eng/index.html

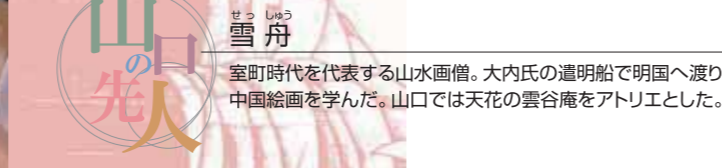


## 石と水の芸術、山水画の世界がここに

# 雪舟庭

(史跡名勝)

市内宮野にある常楽寺。その本堂北側にある庭園は、29代大内政弘が室町時代中頃、画僧雪舟に依頼し築庭したものとされています。東・西・北の三方を林で囲まれた庭は、水と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られ、国の史跡名勝に指定されています。



## 山口の先人 雪舟

室町時代を代表する山水画家。大内氏の透明船で明国へ渡り、中国絵画を学んだ。山口では天花の雲谷庵をアトリエとした。



自然に抱かれて栄華の時間を思う

# 瑠璃光寺 五重塔

(国宝)

山口の歴史を語るには、何といても大内氏から始めなければなりません。その昔、京都に憧れる大内氏が京都を真似、街づくりをした山口。山口盆地に咲き誇った大内文化の華は、31代義隆の時代にその極みに達し、累代の余孽によって財政的にも、文化的にも、さらに権力的にも天下に並ぶ者はないほどでした。山口は平和を保ち「西の京」として繁栄したため、戦乱の京都を避けて山口を訪れる公家や文化人も多かったようです。

瑠璃光寺五重塔は、嘉吉2年(1442年)ごろに建立されたといわれ、大内文化の最高傑作であり、日本三名塔のひとつに数えられています。

今では、山口の観光のシンボルとなっており、緑に浮かぶ優雅な佇まいは、時の流れさえもゆっくりに感じさせてくれるようです。



## 山口の先人 大内義弘

25代大内義弘は文学を好み、和歌や連歌に秀でていた。応永6年(1399年)の応永の乱で自刃したのち、弟の盛見が義弘の菩提を弔うために五重塔を建立した。



## 白狐が見つけ、山頭火が愛したお湯

# 湯田温泉

傷ついた白狐が温泉に足を浸してその傷を癒したという伝説を持ち、古くは大内氏の時代から800年の歴史を誇る湯田温泉。

その無色透明のアルカリ性単純泉は、今も変わらず、優しさと温かさが旅の詩情を満喫させてくれます。

## 山口の先人 種田山頭火

俳句と酒を愛し、全国各地を転々とした。昭和13年(1938年)、湯田に移住、「風来呂」と名付けた庵に住み、酒と温泉を愛した。2年後松山で病没。

